

6 「あわじ花さじき」におけるハナナの長期開花法

ねらいと成果

「あわじ花さじき」は明石海峡大橋が開通した平成10年4月4日にオープンし、甲子園球場の4倍の面積にあたる16haでハナナが咲き誇った。しかし、4月下旬には気温の上昇に伴い急速に株が衰弱し、花の数が減少した。

次年度以降には多くの来客が予想される3月から5月上旬にハナナが咲き続けることがのぞまれるため、切り花種だけでなく食用種をも導入し、播種期と開花期の関係について調査し、長期開花法を検討した。その結果、切り花種と食用種を組み合わせることで1月から4月下旬までハナナを咲かせることができ、さらに花穂を摘心することで花の数が少ないものの5月上旬まで開花させることができる。

内 容

切り花種として「伏見ちりめん」と「花金」、食用種として「キザキノナタネ」、「ナタネ農林16号」、「カラシナ」を用いた。これらを1997年10月20日から12月4日まで2週間ごとに4回、マサ土にピートモスを混合した淡路農業技術センター圃場に直播し、ほぼ放任状態で栽培した。

切り花種は開花が早く、10月20日に播種すると「伏見ちりめん」は1月から、「花金」は2月から開花したが、食用種ではいずれも3～4月からの開花であった。

播種を遅らせると開花始めは遅れたが、開花終了時期は播種時期に関係なく、切り花種では4月中旬、食用種では最も遅い「カラシナ」が4月末で、5月上旬まで咲き続けた種類はなかった。

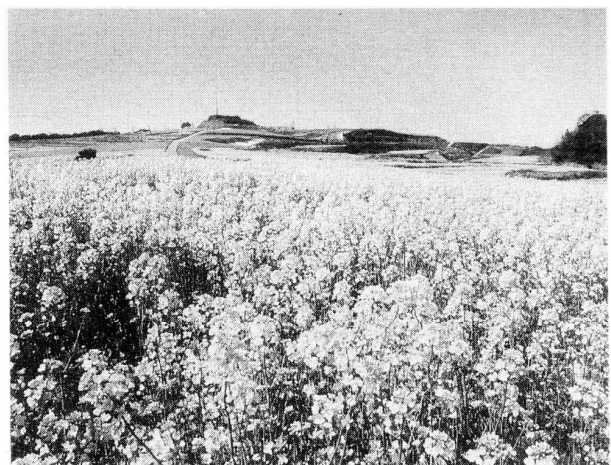
そこで抽だいたした花穂を摘心したところ、切り花種の開花終了時期は無摘心と変わらなかったが、食用種では5日程度遅れた。両種ともに播種期が遅くなるほど草丈が短くなり、花数が少なくなった。

以上の結果から、10月下旬から11月上旬に播種すると、切り花種では1～4月に、食用種とその摘心では4～5月上旬に開花するが5月上旬の花数は少ないことが明らかになった。

今後の方針

ハナナの後、夏～秋にはクレオメ、コスモスなどが開花し観光客の人気の高いため、改植はできるだけ遅らせたいが、翌年のハナナの開花時期や品質を考慮すると切り花種、食用種ともに11月上旬までには播種をしたい。さらに5月上旬まで品質を維持させるために、ハナナの種類と栽培技術について検討しなければならない。

宇田 明（淡路農技・農業部）



平成10年4月オープン時の「あわじ花さじき」

種 類	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
伏見ちりめん	○～○	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————
花金	○～○	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————
カラシナ	○～○	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————
カラシナ（摘心）	○～○	—————	—————	—————	—————	—————	× ———	—————

○：播種 ×：摘心 ■■■■■：開花期間

図 ハナナを長期間開花させるためのモデルプラン